**市内2つの施設が レガシー(遺産)に!**

**選奨土木遺産　鳴子ダム**

鳴子ダムは、複雑なカルデラ地形の地に、日本で初めて設計から建設まで日本人の技術者だけで造られた、１００ｍ級純国産アーチ式ダムです。高度な技術と緻密な設計によって建設されたダムは、昭和32年の完成以来、大崎地域に暮らすわたしたちの生活の支えとなっています。

　平成28年9月、鳴子ダムが近代の土木施設を表彰する『選奨土木遺産』に認定されました。土木遺産とは、歴史ある土木施設の文化的価値を社会に発信し、地域づくりへの活用と貴重な土木施設の保存を目的として、公益社団法人土木学会により、平成12年に創設された顕彰制度です。

　鳴子ダムは、江合川下流域の洪水防止や大崎耕土への農業用水の供給、水力発電による電力供給を担っているほか、大崎地域を代表する観光資源の一つです。新緑や紅葉の季節には多くの観光客が訪れ、特に、雪解け水がダムの上部から水紋を描きながら流れ落ちる「すだれ放流」は、春の風物詩となっています。

　先進の日本の技術を駆使して建設され、その後60年にわたって、わたしたちの生活を支え、恵みをもたらしてきた鳴子ダム。遺産認定を起爆剤に、その魅力を活かした取り組みが期待されています。

写真①：12月4日、鳴子スポーツセンターで行われた土木遺産認定記念式典の様子

写真②：鳴子温泉地域を盛り上げようと開発された鳴子ダムカレー

写真③：水力発電施設の見学や鳴子ダムを下から見上げるツアーが好評でした

**世界かんがい遺産　内川**

内川は、天正19年(１５９１年)に伊達政宗公の命により、岩出山城の外堀を兼ねて開削された歴史ある農業用水路です。江合川から取水して岩出山地域の中心部を貫流し、古川地域へと注がれています。

　この悠久の流れは、４００年の時空を超え、今なお大崎耕土を潤し続け、ササニシキ、ひとめぼれ、ささ結などを生み出してきた日本屈指の米どころを支えています。

　平成28年11月８日、内川が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。この遺産制度は、インドのニューデリーに本部を置く、国際かんがい排水委員会(ＩＣＩＤ)により平成26年度に創設されたものです。建設から１００年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたものなど、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・顕彰しています。

　平成３年に行われた内川の大改修時には、自然環境や歴史的景観の保全に配慮されたほか、「学問の道」として約2・5㎞の遊歩道が整備されています。また、夏に行われる「内川夏まつり」では、ウォークラリーや鮎のつかみどりなどで賑わい、親水空間としても、地域の皆さんや観光で訪れた皆さんの憩いの場になっています。

写真①：「内川・ふるさと保全隊」など、地域の皆さんの手で保全活動が行われている

写真②：内川夏まつりで毎年行われる「ウォークラリー」

写真③：12月14日、農林水産省で世界かんがい施設遺産登録証伝達式が行われた